

## だからわるい

昨日の6時間目と今朝の朝学習時間15分を使って、3年生と次の教材で授業をしました。

だからわるい

作:オセーエワ 訳:西郷竹彦

一匹きの犬が、体を前にかがめて、はげしくほえたてています。そのすぐはなさきに、かきねにぴたりと体をよせて、一匹きの小ねこが、毛をさかだててふるえています。

かーっと口をあげ、ニャーオ、ニャーオとなえています。すぐそばに二人の男の子がたって、なりゆきをみていました。

まどから、それをのぞいていた女の人が、とぶようにして、かいだんからかけおりてきました女の方は、犬をおっばらうと、男の子たちをしっかりとつけました。

「あんたたち、はずかしくないの！」

「どうして、はずかしいの？ぼくたち、なにもしていないよ！」

男の子たちは、びっくりしたように、いいました。

「だから、わるいのですよ！」

女の方は、まっかにおこっていました。

時間が限られていたので十分に学習はできませんでしたが、日ごろからよく鍛えられた学級の子どもたちです。言葉ひとつひとつを吟味し、この場面の表象化を的確に行っていました。こどもたちの様子を見てみるとみんな仲が良く、あたたかい学級の空気感が感じられます。そのような美味しい空気を日々吸収し成長しているこどもたちですから、教材の中の男の子二人も自分たちと同じことを考えていると思ったようでした。そこで、提示していなかった次の挿絵を見せると、「ワーッ。」という声がたくさん聞こえてきました。



この挿絵を見て、男のたちが小ねこを助けてあげられる立場や位置にありながら傍観していること。その間違いを理解できていないこと。これはけんかではなくいじめであることなどを認識したようです。

あっという間に時間が過ぎてしまい、もう少し深く読んでみたかったのですが、とても心地よく授業ができました。

ありがとう、3年生の子どもたち。今回の授業についてまとめた感想文の提出を楽しみにしています。